

アジア研究教育拠点事業セミナー(S-1)実施報告書

平成 22 年 9 月 24 日

独立行政法人日本学術振興会 殿

京都大学東南アジア研究所 速水洋子

セミナー実施報告書を次の通り作成しましたので提出します。

セミナー名	日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「グローバル時代における文明共生：東南アジア社会発展モデルの構築」	
開催期間	平成 22 年 8 月 27 日	
開催地	タイ国 バンコク ロイヤルリバーホテル	
日本側責任者	氏名	速水洋子
	所属機関・職名	京都大学東南アジア研究所・教授
開催責任者 (※日本以外の場合)	氏名 (英文)	Chulacheeb Chinwanno
	所属機関・職名 (英文)	Thammasat University, Vice Rector
セミナーの概要及び成果		
<p>【概要】 本セミナーの目的は、本アジア拠点事業の核となるテーマのもとで、若手研究者が、複数の共同研究とかかわりの深い研究成果の発表と議論を行うことであった。当事業開始後初めてのタイにおけるセミナーであり、その意味でカウンターパート機関であるタマサート大学で本事業を紹介し、既に本事業に関わっている若手研究者のみならず、今回新たに当事業に参加した若手を加えて議論をすることを目的とした。</p> <p>【成果】 セミナーでは、当事業の核となるテーマ「アジアにおける相互関係の変化の中で、どのような新たな研究上のチャレンジが見られるか」について、タマサート側の東南アジア研究プログラムを長く担ってこられた Aphornsuvan 教授により、東南アジア研究そのものの展開を問う発表、そして日本側から、水野教授が共同研究 3 のテーマである東アジア経済の変化とそこにみられるアジア的発展の道筋について、速水は、Asian Connections という本事業の大テーマを社会の基盤から議論するという意味で、東南アジアにおける親密圏と公共圏の再定位の議論を提示した。いずれも本事業のテーマである東・東南アジア地域社会の関係性の広がりや展開について、研究・経済発展・社会関係基盤のそれぞれをめぐって、パネル発表・討論が行われた。</p>		

その後、第二部では、タイ側の若手研究者による発表と討論が行われた。本事業の共同研究2にすでに参加していた2名が国境や民族から国家を論じるという、2010年2月のシンポジウムを引き継いだ議論を提示した。また、今回新たに参加した若手からは、共同研究3のテーマに基づくASEAN経済に関する発表、今後の共同研究で予定されているテーマに関わる環境とガバナンス、災害への地域的対応などに関する発表が行われた。いずれも充実した内容の発表であり、これらの研究者やその研究が今後の事業の展開に重要な役割を果たすに違いない。

日本側より参加した水野教授は、パネル“Research Challenges in S.E. Asia”での発表及び討論を行い、若手研究者の発表においても討論に参加した。

本セミナーでは、多くの若手発表者について発表論文が配布された。これは、小冊子にして綴じ、今後の本事業の共同研究の参考とするとともに、論文を数本厳選して、ワーキングペーパーとして発行する予定である。

○参加者

① 「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 15 人

- 1-16 京都大学 速水 洋子 C
- 1-21 京都大学 水野 広祐 A
- 2-1 タマサート大学 Aphornsuvan, Thanet
- 2-6 タマサート大学 Chinwanno, Chulacheeb
- 2-7 タマサート大学 Prasirtsuk, Kitti
- 2-8 タマサート大学 Phanishsarn, Aksornsri
- 2-16 チュラーロンコーン大学 Phongpaichit, Pasuk
- 2-18 タマサート大学 Yukti Mukdawijitra
- 2-20 タマサート大学 Khamkhun Akkharaphong
- 2-33 タマサート大学 Nitinant Wisawaisuan
- 2-34 タマサート大学 Pinn Siraprapasiri
- 2-35 タマサート大学 Surachai Sirikrai
- 2-36 タマサート大学 Duangjai Lortanavanit
- 2-37 チュラーロンコーン大学 Chaiwat Khamchoo
- 2-38 タマサート大学 Tavidia Kamolvej

② 「参加者研究者リスト」に記入されていない一般参加者数 40 人

○日程及び課題（セミナー関連資料があれば添付すること）

別添 プログラム